

2階展示室

19世紀ホールを取り囲むように配された展示室は、天井の高低や所々で途切れた壁の配置によって、多様な空間の広がりや変化を楽しみながら回遊することができます。

バルコニー

19世紀ホールに面して設けられた2か所のバルコニーからはホールを見下ろしたり、もうひとつのバルコニーの奥へ視線が抜けたりと、館内の豊かな空間構成を感じることができます。

中3階(照明ギャラリー)

屋上から採り入れた自然光と照明器具による人工光を、2階展示室や19世紀ホールに採り入れるための回廊状の小部屋です。
(現在は人工光のみを使用しています)

中3階(バルコニー)

幅のせまい階段が付いたバルコニー状の小部屋です。会議室や小さな作品の展示空間として作られました。
(現在は非公開です)



モデュロール(外部)

ミュージアムショップやレストランの窓の外に取り付けられたコンクリート製のルーバー(細い板)は、モデュロールにもとづく寸法で配置されています。前庭や外壁パネルのデザインも、モデュロールでリズムカルに割りつけられています。



モデュロール(室内)

ル・コルビュジエは人体の寸法をもとに建築各所の設計を行いました。柱は635cm間隔で均等に立てられています。2階展示室の低い天井、中3階の天井の高さは226cm、バルコニーの手すりの高さは113cmなど、建物のほとんどがモデュロールの寸法になっています。

上野公園には、ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館(本館)のほか、彼の弟子である前川國男が設計した国立西洋美術館(新館)、東京文化会館、東京都美術館があります。東京初の世界文化遺産である国立西洋美術館とあわせて、ル・コルビュジエに関連する文化施設を巡ってみましょう。

国立西洋美術館(新館)



©国立西洋美術館

東京文化会館



©東京文化会館

東京都美術館



©東京都美術館

所蔵作品の増加に伴い必要となった展示スペースを確保するため、国立西洋美術館設立20周年の記念すべき年(1979年)に竣工しました。ル・コルビュジエの設計した本館と一体に機能するように増築された新館は、彼の弟子である前川國男の設計です。本館と一緒に三本の樺・銀杏・楠などを抱き込むように配置され、それによって緑豊かな中庭が作り出されています。

東京都が開都500年事業として建設し、1961(昭和36)年に開館しました。オペラ、バレエ、オーケストラなどの公演を行う大ホール(2303席)、室内楽やリサイタル等で使用される小ホール(649席)、そのほかりハーサル室や各種会議室、さらに専門の音楽図書館である音楽資料室を備えています。前川國男の設計による代表的なモダニズム建築としても知られ、「音楽の殿堂」として多くの人々に親しまれています。

1926(大正15)年、日本初の公立美術館として開館しました。国内外の名品を楽しむ特別展をはじめ、自主企画展や美術団体による公募展など多彩な展覧会を開催するほか、アート・コミュニケーション事業など、「アートへの入口」としてさまざまな事業を展開しています。1975(昭和50)年に開館した前川國男の設計による現在の建物は、前川建築らしい都市的な空間と公園の自然との調和が魅力的です。

ACCESS



国立西洋美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園7-7

- JR上野駅(公園口)下車
徒歩1分
- 京成電鉄京成上野駅下車
徒歩7分
- 東京メトロ銀座線、日比谷線 上野駅下車
徒歩8分
- 台東区循環バス「東西めぐりん」
22番停留所「京成上野駅」
徒歩7分

※周辺の駐車場の数に限りがあるため、来館の際には公共交通機関をご利用ください。

編集・発行 台東区役所 都市交流課 世界遺産担当
〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6
TEL 03-5246-1111 (代)
令和元年9月(平成31年度登録第35号)



古紙再生紙を使用しています



写真提供: 国立西洋美術館

東京初の世界文化遺産 国立西洋美術館

2016年7月 国立西洋美術館を構成資産に含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」が世界文化遺産に登録されました

世界遺産のあるまち 台東区



台東区文化遺産
Division of Taihoku City

WORLD HERITAGE in Ueno

19世紀ホール

ル・コルビュジエが名づけたホールは美術館の核となるよう建物の中心に置かれました。吹き抜け空間が2階や中3階と様々なところでつながった、複雑な空間を感じることができます。

三角形のトップライト

北向きの明かり通りの窓から、やわらかな自然光が差し込みます。

建物を支える柱と梁

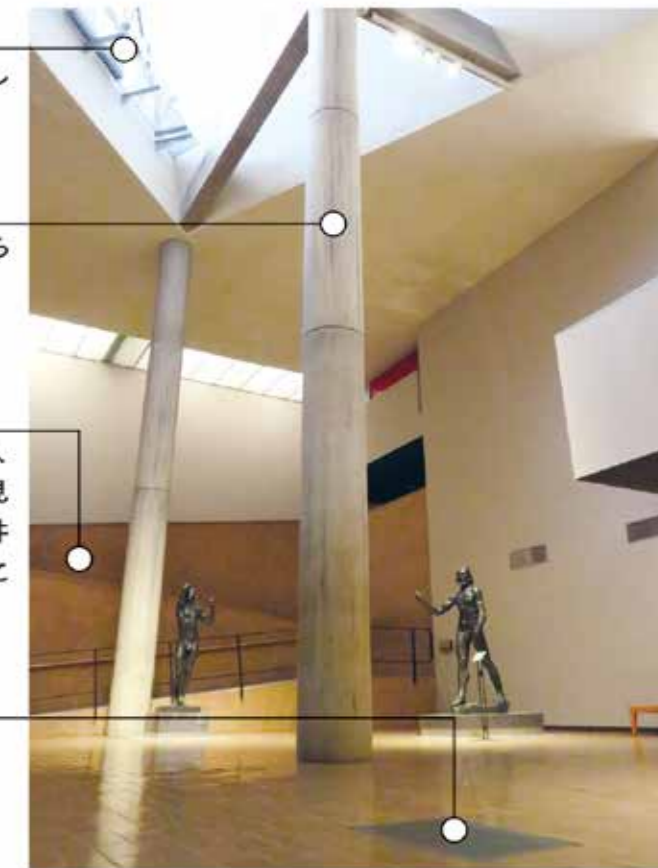
姫小松という木の型枠にコンクリートを流し込んで作られたため、木目が美しく浮き出しています。

斜路(スロープ)

ル・コルビュジエが多くの建築作品に用いた斜路は、登るにつれ段々と景色が変わってきます。柱の奥に見え隠れする絵画作品や見え方が変わる三角形の天井など、空間の変化をゆっくりと楽しみながら移動することができます。

床照明

人工光で作品を下から照らすための装置です。
(現在は使用していません)



ピロティ

ル・コルビュジエが提唱した「近代建築の5つの要点」と「無限成長美術館」に含まれる大切な要素のひとつです。

外壁パネル

玉石が埋めこまれた外壁は建物の荷重を支えない、取り外し可能なパネルとして作られています。
(現在はほぼ全てが新しいパネルに交換されています)



『ル・コルビュジエの建築作品』 世界遺産として認められた価値

1920年代初頭から1960年代半ばにかけて設計・建設された「ル・コルビュジエの建築作品」は、半世紀にわたる「近代建築運動（19世紀以前の様式建築を批判し、新しい社会の求めに応じた建築を作ろうとする運動）」の歴史を証明するものです。世界各地に存在し、国境を超えた一連の資産は20世紀の建築に大きな影響を与えました。

建築によるアイデア（思想）の具現化

ル・コルビュジエの作品は、20世紀という新しい時代の精神や社会、あるいは生活上のニーズに対する先駆的な回答でした。

ル・コルビュジエの建築が全世界に与えた大きな影響力

ル・コルビュジエの作品は、新しい建築に対する考え方や価値観を世界中に広めました。

世界遺産とは

世界遺産とは、世界の人人たちの宝物として大切に守っていく必要がある、貴重な文化財や自然のこと。これを国際社会が協力して守り、次世代に伝えるための決まりが1972年にユネスコ(国際連合教育科学文化機関。教育、科学及び文化などの活動を通じて、世界平和を実現するために作られた国際機関)の総会で採択された「世界遺産条約(世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約)」です。世界遺産条約の締約国は、ユネスコ世界遺産センターに候補の資産を記載した「世界遺産暫定一覧表」を予め提出したうえで、「推薦書」を作成し、提出します。イコモス(国際記念物遺跡会議。世界遺産委員会の文化遺産に関する諮問機関)は、書類審査と現地調査により「推薦書」を評価し、勧告を行います。イコモスの勧告を反映した決議案に基づき、世界遺産委員会で審議が行われ、世界遺産一覧表へ記載(世界遺産登録)が決定されます。

★世界遺産の分類 世界遺産には3つの種類があります。

文化遺産	自然遺産	複合遺産
建物や遺跡、城、寺院、古墳など	地形や風景、貴重な動植物の生息地など	自然遺産と文化遺産の両方の価値をもつもの



世界遺産委員会の決議区分

区分	内容
1 登録(記載)	世界遺産一覧表(リスト)に登録(記載)するもの。
2 情報照会	追加情報の提出を求めた上で次回以降に再審議するもの。
3 記載延期	より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要なもの、推薦書の再提出後、再度、諮問機関の審査を受ける必要がある。
4 不記載	世界遺産一覧表(リスト)への登録(記載)にふさわしくないもの。当該物件の登録を再度推薦することは、例外的な場合を除き、認められない。

登録までの道のり

平成19年(2007年)	9月	フランスから日本政府へ共同推薦の依頼 日本政府が、国立西洋美術館(本館)を「世界遺産暫定一覧表」へ記載
	12月	国立西洋美術館(本館)を国の重要文化財(建造物)に指定
平成20年(2008年)	1月	日本政府が、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の世界遺産への推薦を決定
	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書「ル・コルビュジエの建築と都市計画」を提出
	10月	イコモスによる現地調査
平成21年(2009年)	5月	イコモスから「記載延期」とする勧告
	6月	第33回世界遺産委員会(スペイン)で審議 →「情報照会」とする決議
平成23年(2011年)	2月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」として追加情報を提出(推薦書のタイトルの変更、構成資産の見直し等を行った)
	5月	イコモスから「不記載」とする勧告
	6月	第35回世界遺産委員会(フランス)で再審議 →「記載延期」とする決議
平成26年(2014年)	9月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書(暫定版)「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」を提出
	1月	日本政府が、「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」の推薦を決定
平成27年(2015年)	1月	関係国を代表して、フランス政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書(正式版)「ル・コルビュジエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-」を提出
	8月	イコモスによる現地調査
平成28年(2016年)	5月	イコモスから「記載」とする勧告
	7月	第40回世界遺産委員会(トルコ)で審議 →「記載」とする決議

世界文化遺産 「ル・コルビュジエの建築作品 - 近代建築運動への顕著な貢献 -」

構成資産7カ国17資産

(原文:L'Œuvre architecturale de Le Corbusier - Une contribution exceptionnelle au Mouvement Moderne- 〈仏語〉)
(The Architectural Work of Le Corbusier - An Outstanding Contribution to the Modern Movement - 〈英語〉)

フランス (10資産)



日本 (1資産)



ドイツ (1資産)



スイス (2資産)



ベルギー (1資産)



アルゼンチン (1資産)



インド (1資産)



ル・コルビュジエってどんな人?



ル・コルビュジエ(Le Corbusier) 1887-1965

本名:シャルル・エドゥアール・ジャンヌレ
※「ル・コルビュジエ」という名前は、雑誌「エスプリ・ヌーヴォー」の中で用いたペンネーム
・スイスのラ・ショー=ド=フォン生まれ
ル・コルビュジエは、時計職人である父親の家業を継ぐため、美術学校で彫刻や彫金を学びました。在学中、先生であるシャルル・レプラトニエから建築を学ぶことをすすめられ、建築家としての一歩を踏み出します。その後スイスからパリに拠点を移し、世界中で活躍しました。(のちにフランス国籍取得)

- 20世紀を代表する近代建築の巨匠の一人。
- 「ドミノシステム」、「近代建築の5つの要点」、「モデュロール」、「無限成長美術館」などの新しいアイデアを提案し、20世紀以降の建築やデザインに大きな影響を与えました。
- 世界各地に約70の建築作品があります。
- 建築分野以外にも、絵画、版画、彫刻などの芸術作品の制作をはじめ、インテリアのデザインや執筆活動などにも取り組み、小住宅から国連ビル原案まで幅広い創作活動を展開しました。

ル・コルビュジエの建築を知るためのキーワード

モデュロール

建物の寸法を決めるルールで、黄金比と身体のサイズを利用してつづいた定規(基本寸法)です。たとえば、人(183cmのヨーロッパの男性)が手をのびた高さ(226cm)を住宅の天井にちょうどよい高さで決めました。このようにして部屋、家具の大きさなども「モデュロール」で決めています。

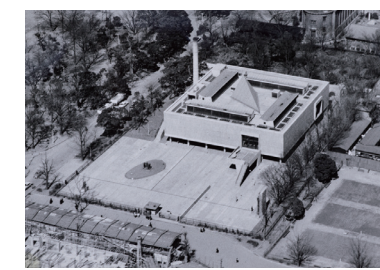
近代建築の5つの要点

ル・コルビュジエは近代建築を成り立たせるための5つの要点を提案しました。

- 1. ピロティ**
建物を柱で持ち上げて地上部分にできる吹き抜ける空間です。雨や強い日差しを避けるとともに、建物内外の流動性を増します。
- 2. 屋上庭園**
勾配屋根ではなく、水平な屋上にする事で、植物を植えたり、日光浴を楽しんだりして、都会でも自然を感じる事ができます。
- 3. 自由な間取り(平面)**
壁でなく柱で建物を支え、空間を仕切る壁を別に設けることによって自由な部屋をつくる事ができます。
- 4. 横長の窓(水平に連続する窓)**
柱や壁にじゃまされずに幅広く窓をあけて、光を部屋のすみずみにまでとり入れることができます。
- 5. 自由な立面(ファサード)**
建物を壁のかわりに柱で支えることによって自由にデザインできるようになった壁面の事です。



国立西洋美術館ってどんな建物?



国立西洋美術館 昭和34(1959)年完成 設計者:ル・コルビュジエ

- 「松方コレクション」の寄贈返還を通じて、戦後の日本とフランスの文化交流の象徴となった建物です。
- 東アジアで唯一のル・コルビュジエ作品であり、ピロティ、スロープ、屋上庭園、モデュロールなど、ル・コルビュジエの建築的な特徴がよく表現されています。
- 「無限成長美術館」の構想がよく示されている美術館です。

国立西洋美術館ができるまで

1910年代半ばから20年代半ばにかけて、当時、川崎造船所社長であった松方幸次郎は、ヨーロッパ各地で絵画・彫刻等の美術作品を収集しました。これらは「松方コレクション」と呼ばれています。

第二次世界大戦後、一時フランス政府の所有となった松方コレクションは、1953年、新しい美術館をつくることを条件に日本へ返還されることとなりました。

しかし、戦後間もない日本は予算不足でした。結局、不足分は画壇や財界を巻き込んでの募金でまかなうことになりました。当時のお金で1億円が集まったと言われており、いかに人々の期待が大きかったかわかります。

美術館の設計には、世界的な建築家ル・コルビュジエが選ばれました。ル・コルビュジエは、1955年11月に日本を訪問し、上野公園内の建設予定地を調査しました。ル・コルビュジエがつくった設計図をもとに、彼の弟子である前川國男、坂倉準三、吉阪隆正の3人が協力して美術館の建設を進めました。

そして1959年3月に美術館は完成し、同年6月10日に開館しました。

松方幸次郎と「松方コレクション」

「松方コレクション」を築いた松方幸次郎(1866-1950)は、明治の元勳で総理大臣も務めた松方正義の三男です。1896年、株式会社川崎造船所の初代社長に就任し、海運業で巨額の財を得ました。

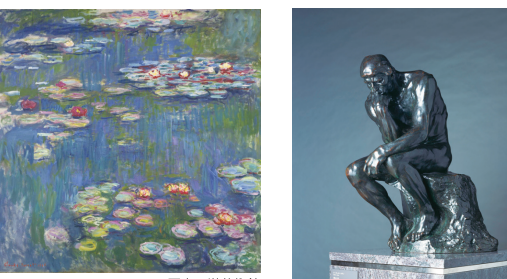
松方幸次郎が美術品の収集を始めたのは、第一次世界大戦中のロンドン滞在時のことです。大戦により造船で莫大な利益を上げた松方は、1916年から約10年間でたびたびヨーロッパを訪れては画廊に足を運び、絵画、彫刻から家具やタペストリーまで膨大な数の美術品を買い集めました。ロダンの彫刻作品、モネやルノワールなどの絵画など、彼が手に入れた作品の総数は1万点に及ぶと言われます。

彼が美術に情熱を傾けたのは、自分の趣味のためではなく、日本に美術館をつくり、若い画家たちに本物の西洋美術をみせてあげたいという気概からでした。

松方が収集し、ヨーロッパに残されていた美術品のうち、ロンドンの倉庫にあった作品群は火災で失われてしまいました。一方、パリに残された約400点の作品は、ロダン美術館の一角に保管されていました。これらの作品は第二次世界大戦後、フランスの国有財産となります。この作品群の寄贈返還を通じ、国立西洋美術館が誕生することになるのです。



株式会社川崎造船所(現川崎重工業(株))
初代社長 松方幸次郎
写真提供:川崎重工業株式会社



クロード・モネ <睡蓮>
1916年 油彩、カンヴァス
松方コレクション

彫影:上野明宏
オーギュスト・ロダン <考える人>
1881-82年 ブロンズ
松方コレクション